

令和4年度 第2回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会  
【概要・要旨】

令和4年度 秋田県埋蔵文化財センター運営協議会概要

名 称	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
設置根拠	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会規定
設置目的	秋田埋蔵文化財センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため
委員構成	委員長1名 副委員長1名 委員8名 計10名（うち女性委員2名） ※ 定数10名以内
委員任期	2年間：令和3年4月1日から令和5年3月31日まで
第2回	令和5年2月9日 14:00～15:30 埋蔵文化財センター第1研修室

# 令和4年度 第2回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会 要旨

1 日時：令和5年2月9日(木) 14:00～15:30

2 場所：秋田県埋蔵文化財センター 第1研修室

## 3 出席者

### 委員：7名

小松 正夫	委員長	(前秋田考古学協会会長)
栗林 靖雄	副委員長	(美郷町立六郷小学校校長)
金子 徹章	委員	(美郷町立千畑小学校校長)
北野 悟	委員	(仙北地域振興局総務企画部地域企画課課長)
栗谷川 学	委員	(南教育事務所仙北出張所所長)
佐々木淳一	委員	(柵の案内人 大仙市ほたるの会会員)
渡部 育子	委員	(国立大学法人秋田大学名誉教授)

### ※欠席者：3名

小坂 靖尚	委員	(横手市立山内小学校校長)
菅原 和仁	委員	(大仙市立高梨小学校校長)
山崎 裕子	委員	(山崎ダイキャスト株式会社取締役管理部長)

### 事務局：8名

磯村 亨	所長	(兼 払田柵跡調査事務所所長)
佐藤 三雄	副所長	
川本健太郎	副主幹	(兼) 総務班長
村上 義直	副主幹	(兼) 調査班長
袴田 道郎	主任文化財専門員	(兼) 中央調査班長
吉川耕太郎	副主幹	(兼) 資料管理活用班長
谷地 薫		(兼) 文化財主査 (本務 払田柵跡調査事務所調査班長)
堀川 昌英	学芸主事	

## 4 協議内容

### (1) 令和4年度事業報告について

- ① 令和4年度 事業報告 (調査関係)
- ② 令和4年度 事業報告 (活用・普及関係)

### (2) 第1回運営協議会における提言と対応について

### (3) 令和5年度事業計画案について

- ① 令和5年度 事業計画案 (調査関係)
- ② 令和5年度 事業計画案 (活用・普及関係)

指導・助言

## 5 委員からの御意見・御提言：

- ・西明寺小学校は毎年出前授業を依頼していて、地域の総合学習等の活動がさらに深化している様子が見えたので、センターとのつながりを持つことができてよかった。また、地域の歴史家の方々と埋蔵文化財センターの職員の方々との連携が取れてよかった。場合によっては地域にそのような所がまだまだあるので、その際には埋蔵文化財センターの方々からお知恵をいただきながら活動できるのではないかと思います。
- ・コロナ禍により人数制限がかかっている中で、これだけ事業を実施している。参加した考古学セミナーでは参加者の熱気が伝わってきた。配付資料もよく、成果があったと感じた。また、企画コーナー展のテーマⅢ「払田柵跡と古代遺跡」を見学して、払田柵跡に関する非常に悩ましい研究史をとともわかりやすくコンパクトに整理し展示していると感じた。
- ・払田柵跡調査事務所設立50年のイベント（展示、講演会）は非常に興味深い。より多くの人（特に県民）に払田柵跡に来ていただくために、現地へのアクセスを記載したものを会場に置いてみてはどうか。現地（払田柵跡や埋蔵文化財センター）へのアクセスを記載したものがあっていいと思う。また、イベントがある時にシャトルバスの運行を検討してはどうか。2010年の平城京遷都1300年のイベントでは、大和西大寺から平城京まで無料のシャトルバスを運行していた。岩手県でも盛岡駅から志波城までシャトルバスを運行し、駅と現地を往復した。例えば美郷町のバスで指定した日に新幹線の到着時刻に合わせて大曲駅からシャトルバスを運行するような企画ができて周知もできれば、県外の方にも現地を訪れてもらうチャンスの一つになるのではないかと思います。
- ・千畑小学校では6年生がセカンドスクールで利用した。本物に触れることができて、教室では感じることはできない感覚的な学びが十分にできた。学級担任も喜んでいて、令和5年度も継続したいと考えている。
- ・セカンドスクールの利用について、いつも受け入れてもらい、興味がわくような指導があり、また、中堅教員等資質向上研修での対応もしてもらいたい。令和5年度もよろしくお願ひしたい。令和5年度は払田柵跡調査事務所調査50年という節目の年でもあるが、埋蔵文化財センターの運営や事業でも「コロナ禍で苦しみながら学んだことをいかす」という視点も入れてもらいたい。そこから新たな展開が期待できるのではないかと思います。
- ・駐車スペースが十分にあり、バスも利用できることで、県外の修学旅行への対応を考えてみてはどうか。また現在大人を中心に、城巡りがブームになっているので、「古代城巡り」のような企画も観光コースの一つになると思われる。研究・研修では、コロナ禍前は大学のゼミ旅行で多賀城跡や秋田城跡、払田柵跡を見学する計画もあり、各大学からの問い合わせや要望をもとに埋蔵文化財センターに対応をお願いしていた。来年度すぐには難しいかもしれないが、今後はこうした県外からの誘客を考えてみてはどうか。
- ・発掘調査についての報告が行われているが、資料に記載されている内容がもっとイメージできるようにすればいいのでは。例えば見つかった遺構について、写真や数字で大きさを示すだけでなく、CG（AR、VR？）などを利用して立体的に見せてイメージがわくような工夫をしてみてはどうか。また、発掘調査で見つかった課題の解明に向けて調査をお願いしたい。
- ・さまざまな事業を計画し、取り組んでいることに敬意を表す。そうした中で、以前縄文クッキーづくりに取り組んでいたこともあったと思うので、食に結びつけた事業や体験活動も検討してみてはどうか。
- ・第1回運営協議会で美郷町での職場体験のことについてお願ひしたところ、快く引き受けていただいた。コロナの感染拡大状況により中止となったが、子どもたちは非常に楽しみにしていたので、令和5年度もよろしくお願ひしたい。セカンドスクールは子どもたちに

も好評で、ぜひそのよさを各学校の先生方にも知ってもらいたいと思っている。仙教研（大曲仙北教育研究会）という研究団体があり、社会科部会に所属しているが、4月26日（水）には総会があるので、その際にセカンドスクールのパンフレット等配布できるものがあれば、各校に紹介できると思う。パンフレット等をもとに説明して各学校に配りたいと思うので御検討いただきたい。また、仙教研での秋の社会科研究発表会では、千畑小学校の子どもが、埋蔵文化財センターでの体験をいかしての発表があり、とてもいい発表であった。そのようなことも含めて、埋蔵文化財センターでの活動をとおして、子どもたちにとっては非常にいい体験ができることや気づき、思い、ふるさとの愛情を深めることに關してもいい活動になるので、来年度もよろしくお願ひしたい。

- ・事業の内容についてはあまりにもたくさんあり、大変で忙しすぎるのではないかと感じた。埋蔵文化財センターには調査の他に研究という大きな目的もある。研究の時間もある程度確保できるような時間的余裕があってもいいのではないかと思う。事業を縮小しなくても、その中味を検討していけば多少研究に充てる時間がとれるかもしれない。ある程度研究の時間が確保できれば、職員のさらなる質の向上にもつながると思う。

## （2）その他

- ・まもなく刊行予定の『土に聴け』について、カラー印刷だと土器や石器の質感がよくわかるのだが、モノクロ印刷の予定で残念だ。もし書籍にカラー印刷が反映できないのであれば、例えば魁新報社と連携し、デジタル化してカラーで見ることができるようにするか、または埋蔵文化財センターで画像を準備するようにするとさらにいいのでは。

## 6 センターより：

委員の皆様には、秋田県埋蔵文化財センターのために、さまざまな立場から幅広く忌憚のない御意見・御提言をいただき、また本日の運営協議会にお時間をいただき厚く御礼を申し上げます。埋蔵文化財センターは発掘調査が主要な業務であるが、その成果は学校教育や生涯学習で活用して初めて生きてくるものであると思っている。埋蔵文化財センターのある大仙市や美郷町をはじめ、地元地域の活性化に与することも重要な使命であると考えているところである。本日の内容については、事務局で整理し、取りまとめて令和5年度の事業にできる限り取り入れてまいりたいと思う。第2回運営協議会は2月の寒さが厳しい中での開催ではあるが、本日御出席いただいたことに対して、皆様の御厚意に感謝申し上げますとともに、今後のますます御活躍を祈念し運営協議会を閉会する。